

河内

KAWACHI



産経新聞社会部大阪総局

〒556-8661

大阪市浪速区湊町2の1の57

TEL06(6633)9734

osaka-iken@sankei.co.jp

FAX06(6633)9738

若年性認知症でも 仕事の楽しみ実感

東大阪市役所で弁当配達



注文を受けた弁当を配達する若年性認知症の男性(右) 16日、東大阪市役所

働き盛りの65歳未満で発症する若年性認知症への理解を深めてもらおうと、東大阪市役所で、若年性認知症の市民が職員から弁当を受注し、配達した。若年性認知症で働くことが難しくても健常者と接し、仕事の楽しみを感じてもらおう狙いから、市が企画した。

地域包括ケア推進課によると、弁当の配達は昨年12月から毎月1回、若年性認知症の市民とその家族らが交流する場「楽Cafe」を開く中で市が提案。参加者らが賛同し、実現し

た。市役所で弁当を配達したのは50〜60代の若年性認知症の市民4人。職員のサポートを受けながら、市役所7〜10階の職員からドリップコーヒー付きの弁当

(600円)を計179個受注。市役所内のレストランで調理された弁当を職員らに手渡す作業を行い、終了後に弁当を受け取った。参加した同市の無職の男性(64)は、会社役員だった時期にアルツハイマー病を発症し、仕事から遠ざかっていたという。生活面では計算することが難しく、物忘れもひどいが、この日の仕事は「多くの人たちと触れ合えて、楽しかった」と

喜んでいた。

同市内の若年性認知症者は厚生労働省の推計で140人とされるが、回りで把握する対象者は9人とどまり、実情把握が進んでいない。患者の多くは職に就くのが難しいため生活が厳しいが、認知症は見では判断しにくいいため、病气への理解が進んでいない課題もある。

今回、弁当を注文した田義和市長は、若年性認知症でも生活しやすい環境づくりに向けた企画について「一過性でなく、継続し取り組みたい」と話した。